

# 『地域の教材化』を核にした 生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発 ～探究的に学ぶ児童の育成をめざす校長の『実践的リーダーシップ』～

J239106

上田 晋郎

主指導教員 森田英嗣

副指導教員 池上英明

## 第1章. 研究構想

### (1) 社会に開かれた教育課程

平成28年の中教審答申には「社会に開かれた教育課程」の役割について「これからの社会を作り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を育てていくこと」と述べられている。子どもたちの育つ地域社会には様々な学習資源が潜んでいる。本実践課題研究では、コロナ禍で地域とのつながりが希薄になってしまっている実習校において、この学習資源を教材化し、自ら課題を設定し、より主体的に高い関心をもって取り組んでいけるようなカリキュラム開発を目指す教育的な営みを『地域の教材化』として、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざした校長の実践研究を展開する。

【研究の目的】 具体的な『地域の教材化』の事例を挙げながら

- ・ 教員のカリキュラム開発にかかる力量形成を図る
- ・ そのために校長としてどのような戦略で指導を行ったのかを、認知的徒弟制理論に則って分析する
- ・ 子どもたちの主体的に学ぶ力や、探究的に学ぶ資質能力がどのように育まれたのかを明らかにする。

### (2) 地域を教材化するとはどういうことか

数多くの地域学習の先行研究では、郷土学習・ふるさと学習・まちづくり学習と名称もさまざまであるが、そのほとんどが「ふるさとに対する愛着と誇りを育む」ことを目的としている。これに対して『地域の教材化』は第2章(1)のとおり、未知の未来に生きてはたらく資質・能力の向上をめざすものである。

### (3) 先行研究『学習原論』

大正新教育運動は、1910年から30年代後半にかけて開発された初等教育における児童中心的思想と実践である。児童の個々の特性や主体性・活動性に配慮した教授・学習方法に特色があり、『地域の教材化』と共通するところが大きい。とりわけ木下竹次の『学習原論』は、大正新教育運動の中核をなすものであり、先行研究として『地域の教材化』の視点から読み解いた。その内容は環境の解放を謳い、いささかも古びていないどころか、現代においても先進的である。100年前に子どもの可能性をとことん信じて追求してきた先人の取組みは『地域の教材化』の推進にあたって大いに参考となった。

## 第2章. 『地域の教材化』の目的と推進のための具体的な方策

### (1) 『地域の教材化』がめざすもの

『地域の教材化』がめざすものは、地域素材の中から子どもが主体的な学び手と成り得るような子どもにとって親しみと関心のある素材を選び出し、教育課程と結びつけ教材化する教師のカリキュラム開発力と、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、実際の社会を教材化し、探究的かつ教科横断的に、社会におけるさまざまな他者との出会いや体験を通して、主体的に学ぶことのできる児童の資質・能力の向上である。

『地域の教材化』を学校の取組みとして根付かせていくために、校長として、学力向上など学校の課題や児童に育みたい資質・能力、地域や教員の実態を鑑みて戦略的に取り組んだ。

## 第3章. 実践

### (1) 校長としての働きかけ『認知的徒弟制』

『地域の教材化』の実践にあたっては、地域と積極的につながろうとする姿勢と、実際に授業を通して『地域の教材化』を推進する教員へのアプローチが必要である。そこで宮田(1999)の「認知的徒弟制理論に基づくアプローチ」(表1)を参考に、各学年の担任団に行ってきた主な指導や助言、提案や示範、または評価などの校長の働きかけを分析した。『認知的徒弟制』とは「実社会での正統的周辺参加による徒弟的な学びの形態を、学校場面など学習に特化しか状況に応用した教諭方法、または応用のための理論」(福島2019)である。

<b>Modeling (モデリング)</b>	学習者が熟練者によってなされた課題を、同じ方法で順を追ってなぞっていく。熟練者の手順を観察することは、ある意味ではメンタルモデルの形成につながる。
<b>Coaching (コーチング)</b>	学習者が最初から指導者にヒントやフィードバックを与えてもらいながら課題を遂行していく。目標は学習者の課題遂行能力、遂行速度の向上である。
<b>Scaffolding and Fading (スキャフォールディング、足場を作る・フェーディング)</b>	学習者が課題解決に向けて支援を受けながら足場を作り、解決への計画を立てていく。解決のプランニングに頼った場合に、答えではなく考え方の手引きを支援してもらう。目標は学習者の課題の理解と、解決への取り組み方を計画する(解決への見通しを立てる)能力の向上であり、解決への取り組みの主導権をできるだけ早く学習者に譲ることである。
<b>Articulation (明確化)</b>	学習者が自分の立てた見通しをもとに、課題に対する自分の知識や考えを実行に移す。この段階で課題の遂行能力が明らかとなる。
<b>Reflection (内省)</b>	学習者が課題の実行結果をもとに、自分の持つメンタルモデルや解決方法と、指導者や他の学習者の持つメンタルモデルや方略とを比較し内省する。
<b>Exploration (探究)</b>	学習者が独り立ちして課題の遂行が可能で、その課題を考え抜く。問題解決の過程が学習者の中で確立してくる。目標はその解決方略を新しい課題に適用することができる柔軟な応用力の育成である。

(2) 各学年の取組み

本実践研究に取り上げた『地域の教材化』の実践は【図1】のとおりである。校長のアプローチとして最も多いのは、具体的な取組み方について指導や助言をしたり、提案をしたりしたコーチングである。学習の足場づくりとしてあらかじめ地域とのつながりを作っておいたり、学年団と地域をつなげたり、校長が直接地域にお願いしたりしてきたこと(スキャフォールディング)も多かった。ドングリ博士や和泉市ガイドなどの示範的な行動はモデリングに分類している。明確化(アーティキュレーション)は、教員の取組みを言語化することを通して明確化し、その実践に価値づけをするという行為を含んでいる。

- 1年生—スタートカリキュラムと保幼小連携・移動動物園
  - 2年生—町たんけん・JA 野菜の苗屋さん・ドングリ博士
  - 3年生—校区たんけん・和泉市内めぐり
  - 4年生—ごみの学習・写生・福祉学習における校区社協との連携
  - 5年生—地域の防災教育
  - 6年生—公民学習に地域の実態を生かす・SDGs教育
- 【図1】本研究に取り上げた主な実践

第4章. 効果検証

(1) 定量的評価と定性的評価

『地域の教材化』の取組みは「主体的な学ぶ力の向上に効果的だ」「児童の探究的な学習の定着に効果的だ」という項目を学校教育自己診断の教員向けの質問紙に設けたところ肯定的な意見が100%を占めた。教員はみな学力の向上に『地域の教材化』は有効であるという実感をもっている。

年度末の開示面談の場において、聞き取りを行った際にも『地域の教材化』は学力の向上につながると思うと全員が回答しただけでなく、「次年度はこんなことに取り組んでみたい」「あの単元の時にもっと地域を活かしたかもしれない」という内省や展望の声が67%の教員から聞かれたことも成果として挙げられる。

(2) 全国学力学習状況調査の結果から

『地域の教材化』の取組みが学力向上に効果的だったかという評価を「全国学力学習状況調査」に求めたところ、「主体的対話的に学ぶ力」「情報を活用する力」「表現を工夫する力」「学習をふりかえり次の学習につなげる力」の項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。『地域の教材化』は子どもたちの学び方に大きな変容をもたらしたことは言える。

(4) 教員のカリキュラム開発力は向上したのか

「学校教育重点目標の達成を目指し、校長のコーチングやモデリングをヒントに、教職員が自ら単元構想を抱き、『地域の教材化』を取り入れたカリキュラム開発ができる」ことを評価規準としてみたとき、これまでなかった単元を創造したり、これから取り組む単元のカリキュラム図を作成したりとカリキュラム開発力が向上したといえるような具体例を挙げる事ができる。

第5章. 考察

(1) 学校の変容と「実践的リーダーシップ」

『地域の教材化』は学校にどのような変容をもたらしたのか。その一つ目は地域とのつながりが回数内容共に濃密になったことである。二つ目に子どもたちの学び方が主体的対話的で、探究的になってきたことが挙げられる。三つめは教職員がカリキュラム開発のおもしろさに気づき、地域を教育課程に活かす視点が育まれ、さまざまな新しい取組みに挑戦する姿が見られたことが挙げられる。

こうした変容は校長のどのようなリーダーシップによるものだったのか。先行研究から「教育的リーダーシップ」「変革型リーダーシップ」「支援型リーダーシップ」に近いが、「リーダーが自身の実践経験をもとにコーチングしたり、実際に手法や指導をモデリングさせたりすることを通して、フォロワーの発想や意欲を掻き立て、新たな価値や挑戦を促すリーダーシップ」を「実践的リーダーシップ」と定義づけた。

(2) 課題と今後の展望

1. 教員がその魅力に気づき開発したカリキュラムの質の向上をどのように図っていくのか
2. 主体的対話的に学ぶ力、探究的に学ぶ力が『地域の教材化』の成果であると根拠が筆者や教職員の見立て以外に示すことができていない
3. 校長が変わっても、学校において『地域の教材化』の取組みは継続されていくのか